

令和2年度 学校評価報告書

学校名	三田市立志手原小学校
-----	------------

1 学校教育目標

自ら学ぶ意欲と方法を身に付けた 心豊かな志手原っ子の育成 めざす子ども像 「笑顔いっぱいの志手原っ子」～学ぶ子・優しい子・元気な子～ 「学ぶ子」 基礎・基本を身につけ進んで学ぶ子 意欲を持って学んだことを生活に生かせる子 「優しい子」 自然を愛し、自他の命を大切に 社会に広く目を向け、思いやりの心を持ってつながる子 「元気な子」 自分の命や体を大切にするとともに健康な生活習慣を身につける子 困難に打ち勝つ気力と体力を持ち、前向きに取り組む子

2 今年度の学校重点目標

① 基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける。 ② 学校全体で協働して授業改善を進める。 ③ 健やかな体をつくるための力を育む授業を進める。 ④ 豊かな人間性や社会性を培い、ともに伸びる姿勢を育む。 ⑤ 地域の素材を活かした授業に取り組む。 ⑥ 安全で、豊かな教育活動の実現を図る。 ⑦ 家庭や地域と課題を共有し、子どもの健やかな育ちを図る。 ⑧ 適正な予算執行に努めるとともに、明確な会計管理を徹底する。

3 総合的な自己評価

新学習指導要領がスタートし、新型コロナウイルス感染拡大防止による教育活動の様々な制限がある中で一年であったが、教員・児童・保護者対象に実施したアンケートにおいては、教育活動や学校生活全般において昨年度とほぼ同等の結果を得ることができた。今年度も、全職員で協力して、子どもたちを見守っていくことができた。GIGAスクール構想による児童一人一台 iPad の導入がされ、授業の中で情報機器の活用積極的に取り組んでいくことができた。来年度も継続して取り組んでいく。今年度から発足した志手原地域づくり協議会と連携して、地域住民の参画方法と模索し、運営を行っていく。
--

4 総合的な学校関係者評価

職員や保護者、児童へのアンケート等を実施し、計画的に自己評価がなされている。アンケート結果から、学校が楽しいと答えている児童の割合が高く、適切な教育活動がおこなわれている。年々忙しくなっていく中、全職員で協力して、子どもたちにとって、より良い教育をしようと努力する姿が見られた。引き続き、教職員全体での情報共有に努めるとともに、保護者の評価については、全体に高い評価であっても、少数意見についても大事にしていってほしい。今年度からスタートした志手原地域づくり協議会と学校との連携を模索していってほしい。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	
教育目標 教育方針	教育目標及び教育方針、指導の重点項が、児童や地域、学校の実態や、教育課題に即応しているか。	本年度も、様々な場面で地域の方々の協力を得ながら、コロナ対応により様々な制限がある中で、教育目標の達成に向けて努力した。アンケートから、児童は学校での学習や活動を楽しみに生活していることがわかる。本校児童のよさである素直で真面目なところを生かしながら、さらに自主性や意欲を引き出していく取り組みを通して、子どもたちの学びに向かう力を伸ばしていきたい。	今後も、制限のある中工夫をこらして、保護者や地域と連携しながら、充実した教育活動を展開していく。より一層の連携を図るために、ホームページや学校便りで学校の取り組みや考えを紹介していく機会を増やしていく。小規模校の良さを生かした行事の内容を工夫するとともに、幼小中交流や志手原フェスティバル、仲良し集会など様々な機会を通して、自分の考えを表現し、前向きに取り組む態度を育成する。	学校と保護者、地域との連携ができてきている。今後もこの関係を継続していくことが必要である。元気な志手原っ子の育成をめざしてほしい。今年度から発足した地域づくり協議会との連携方法を模索し、運営していってほしい。
	期待する児童像の実現に向け、本年度の指導の重点事項を意識した指導ができたか。	学校教育目標や学年目標など指導の重点項目が、校内や教室に掲示されるとともに、学校便りや学年便りを通じて発信され、意識した指導がなされている。子どもたちもめあてをもって、生活、学習しようとしている。小規模校のよさを生かし、学校全体で子どもたちの成長を見守ることができている。今後、自分らしさを積極的に出しながら、自ら工夫し、主体的に学習や行事に取り組む力をさらに育てることが必要である。	進んで学ぶ姿勢や学びの中で自ら疑問を持つ姿勢を大切にしてきた。今後は授業の中で、自分の考えや感想を話す機会を増やしていきたい。友だちとの交流の中で、疑問をぶつけ合ったり、共感あったりする活動を通して、自分を表現する楽しさや友だちと学習する楽しさを感じる授業づくりに努力していく。また、家庭との連携のもと、家庭でも進んで学習する習慣や、健康的な生活習慣を身につける取り組みを進めていく。	家庭での教育力を高めるためにも、学校で取り組んでいること、家庭にも協力してほしいことなど互いに情報の伝達をする機会を増やしていってほしい。家庭でも進んで学習できるように、自主学習の仕方を、保護者にも伝えてほしい。
教育課程 学習指導	年間計画の学校行事(運動会・音楽会・オープンスクール等)の内容及び取組時間は適切であるか。	新型コロナで縮小して、自然学校、運動会、音楽会、オープンスクール等の行事を行った。子どもアンケートでは、ほぼ100%の児童が、「行事でがんばった。」と答えており、縮小した中でも、子どもたちが学校行事を楽しみにし、精一杯取り組み、達成感を感じていることがわかる。しかし、教師からのアンケートでは、行事の実施時期、取り組み時間についての課題が見られた。来年度から、さらに行事の内容・方法・時期について改善が必要である。	子どもたちが、達成感とともに意欲的に取り組んでいけるように、小規模校のよさを生かした魅力的な行事作りについて、更なる工夫改善に努める。今年度を基準に本当に必要なものを取り入れ、地域の人に参加してもらえようとする。小規模校ならではの縦割り活動の充実を図り、子どもが主役として活躍できる行事をしていきたい。学校行事を、より子どもたちにとって魅力的なものにしてほしいという保護者の願いを大切にしながら、今後も内容を工夫していく。	今後も少人数の良さを生かした魅力的な行事づくりの取り組みをさらに進めていってほしい。新型コロナウイルス感染症拡大防止による様々な制限のある中で、少人数の児童による運動会や、音楽会など、工夫がなされ、教職員も努力している。適切な行事の内容や時期を考えていく。(新学習指導要領の完全実施、新型コロナ感染症を良い機会ととらえて)
	各教科の基礎的・基本的な内容を確実におさえ、評価の基準を定め、指導方法を工夫して理解の徹底を図ることができたか。	授業の内容について、児童からは良好な評価を得られている。教師の評価、保護者の評価は高い数値であるとは言えない。複式型新学習システムによる確実な授業計画の推進、教科担任制による授業づくりについては一定の成果があがっている。 教科化された英語の指導は、計画的に行うことができていく。情報活用能力の育成については、教師、児童ともに一人一台 iPad が導入されて、ICT 機器の使用度も増え、少しずつ成果を上げている。音楽、図工、体育、家庭科の各教科で、合同授業を実施し、児童に多人数でできる喜びがあったと感じた。	各教科における授業研究を推進していくことはもちろん、新指導要領の趣旨を踏まえ、校内研究と教育課程を組織化して取り組んでいく。主体的に、意欲的に学ぶ子を目指して、子ども同士の交流の場の充実を図りたい。その際、情報機器を効果的に活用しながら、表現力の育成にも努めていきたい。 教職員自身のコンテンツやアプリ等の活用についての研修を深めていく。 どの教科で、どの教材で、どの場面で使用すると効果的なのかを探っていく。	少人数があるが故、切磋琢磨できる機会も作ってほしい。子どもたちに家庭学習に自主的に取り組もうという姿勢が見られはじめてきたが、保護者の関心については温度差がある。参観日や学校だよりなど活用して啓発をすすめてほしい。今後も情報機器、iPad の活用等も効果的に活用しながら、小中連携をし、先を見通した基礎・基本の力をつけてほしい。
	命と人権を大切に 教育を充実し、思いやりの心を育むことができたか。	「なかよし集会」や「やさしさの花」の取り組みを通して、友だちへの優しい言葉がけや行動しようとする態度が見られるようになっていく。「なかよし集会」では、恥ずかしがらずに、感じたことやテーマについての感想を述べる児童が増えてきている。自信を持って自分の思いを述べるができる「自己肯定感」が、少しずつだが育まれている。	「なかよし集会」が、自分の身の回りの問題や矛盾に気づき、解決しようとするための発信となるように、子どもたちの身の回りの出来事を題材にしたり、各学年に合っているものをテーマにしたりしていく。また、すべての児童が自分の良いところを自覚し、さらに伸ばしていこうとする自己肯定感が持てるように、日々の授業や学校全ての活動の中で、一人ひとりが活躍できる場を持たせたい。	命と人権に対する取り組みとともに、きまりを守る等の自律の部分に着目した取り組みをしてほしい。引き続き、子どもからの小さなサインを見逃さずに、個々の児童を、教職員全体で丁寧に見ていってほしい。友だちのいいところ探しなど、学校が居心地の良い場所になっていると感じる。幼小交流等、下の学年の面会見がよく、他学年とも仲が良いと感じる。

	個々の児童の到達段階の把握に努め、一人ひとりの基礎学力づくりに取り組めたか。	「ひょうごがんばりタイム」(木曜日放課後)や「朝学習」「朝読書」を含め、継続的に基礎基本の定着に向けて取り組み、学力定着の場となっている。教師が児童ひとり一人の実態を見取り、苦手な部分やつまづきがあるのかを把握し、個別の支援も丁寧に行っている。	「ひょうごがんばりタイム」(木曜日放課後)や「朝学習」「朝読書」を含め、継続的に基礎基本の定着に向けて取り組んでいく。プリント学習の繰り返しだけにならないようにiPadのアプリなども使いながら充実感をもたせる工夫を行っていく。	今後も基礎基本の学力を着実につけてほしい。 情報機器を積極的に活用する等、先を見通した基礎・基本の力をつけてほしい。 個人で学習を進めていくだけでなく、友だち同士で勉強を教え合う学習活動も大切にしてほしい。
	確かな学力を身に付けさせるように、自ら学習する意欲を高める、工夫ある授業づくりに努めたか	新学習システム(複式)、専科制の効果的な活用により、複数の教員の目で学習の様子を見取っていくという体制づくりができています。また、児童に応じた個別の支援も各担任を中心に丁寧に行うことができています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のために制限がある中で「開かれた教育課程」にもつながる地域の豊かな人材をカリキュラムに取り入れていくことを模索しています。	「家庭学習の手引き」については、上野台中学校区で共通の理解を図るため、効果的な活用の方法について各学校の担当が話し合う。 また、児童にも家庭での自主的な学習を意識させる。保護者にもPTA総会や学級集会などで啓発していく。プリントやドリルの反復だけにならないように、学び方(復習、予習、応用、調べ学習)を学年に応じて取り入れていく。	がんばりタイムの継続をお願いしたい。 個々の児童の個性や能力を再確認したり、日頃の学習の成果の有無を検証したりする取り組みを家庭と連携していき、学力の向上につなげてほしい。 朝の学習を工夫し、基礎基本の力をつけてほしい。
生活指導	学校や地域で気持ちの良いあいさつができ、その場に適切な言葉遣いができるように指導できたか。	児童は、学校のきまりや、地域でのきまりを良く守って生活している。あいさつに関しては、全校朝会や学級であいさつの意義を話したり、来客時には、予め呼びかけたりすることで、自分から進んであいさつする児童が増えた。あいさつをしにくい児童も、教師の方から挨拶をすることで、きちんと返せるようになってきた。 言葉遣いに関しては、友だち同士の中では悪い面も見られたりするが、先生や地域の方々に話す時には、丁寧な言葉遣いで話している。高学年の場に応じた適切な言葉遣いが、低・中学年の児童の手本になっている。	引き続き、自分から挨拶することの良さや必要性を絶えず意識させる。教師も挨拶をすることを意識し、継続して声かけをしていく。また高学年が率先して挨拶を広めていく取り組みを児童会が中心となって考えていく場の設定を工夫する。 校内だけでなく、家庭や地域でも時と場合に応じて気持ち良く挨拶できるように、保護者の理解や協力を得ながら、連携して挨拶や言葉遣いの取組を進める。	個人的に話をするときなど、高学年の子どもたちを中心に、敬語を使って話などができている。 朝の挨拶については、機械的に言っているだけでは意味がなく、かえって言われたほうが戸惑うことがある。心の通ったあいさつができるように、あいさつをするの意味を、あらためて子どもたちと考えてほしい。 地域全体の課題として、家庭へも啓発して取り組みたい。
	食育を通して生活改善に取り組み、自分自身の生活を見つめ、向上させようとする態度が育ったか。	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、給食後のはみがき指導はできなかった。毎年行っていた歯磨き指導も行えず残念だった。歯と口の健康については、保健の授業で扱い、これまでの学習が継続できるように配慮した。 歯磨きカードで、振り返る機会を作った。今年度は、夏休み、冬休みの2回実施した。 栄養教諭を中心に、給食の時間等を利用し、食育指導を実施している。身体測定等の時間に養護教諭が学年の発達段階に応じた保健指導を実施した。これにより個々の児童の健康に対する意識が高まった。	基本的な生活習慣や食事の習慣(朝ごはんを食べる、食事を3回とる、好き嫌いをしない、バランスの良い食事等)について、家庭との連携をもとに推進する。 学校からの通信などで、保護者にも指導内容等を伝え、家庭での協力をお願いしていく。	健康的な生活習慣の確立については、保護者と連携して引き続き現在の取り組みを継続してほしい。 食育教育について家庭との連携が大切だと思うので、啓発活動を積極的に行い、実践して行ってほしい。
	一人ひとりの子どもの心に寄り添い、深い児童理解に根ざした生活指導に努めたか。	子どもの人数が少ないこともあり、教師は学年を問わず、日々子どもたちの様子や課題、支援の仕方を共通理解し、子どもたち一人ひとりに目を向け、きめ細やかな指導をする体制づくりをし、日々努力している。本年度は、緊急事態宣言による休校や新しい生活様式等で、学校生活が様変わりすることも多かった。子どもたちがストレスを抱え込まないように、より丁寧に子どもたちの様子を共通理解することに努めた。保護者の行事への参加も制限される中、不安に感じられる方もいることに配慮し、行事の在り方を工夫し、できる限り保護者が参加できる機会を作った。元気に過ごしている子どもたちを見て、安心された保護者も多い。	子ども一人一人との心のふれあいを大切にした指導を行い、教師との信頼関係を強くすることで、相談しやすい雰囲気を作っていく。またいじめアンケート等の実施により、子どもたちの状態や心の様子を探り、困った児童を見逃さずに、声をかけ、教職員全体で見守っていく生活指導の体制を継続する。また保護者がいつでも相談できるように、普段から連携を密にして、何でも相談できる良い関係を構築していきたい。状況に応じて、教師だけでなく学校カウンセラー等の外部機関にも気軽に相談できる体制を作っていく。今後も引き続き、学校、家庭、地域が連携して、子どもたちの成長を見守って行けるような体制づくりを推進していく。	少人数の学校生活なので、個々への細やかな対応をお願いしたい。 児童一人ひとりの悩みや不安に細かく対応できるよう環境づくり、雰囲気づくりを更に、工夫して行ってほしい。 保護者、地域としても来年度もできる場所で精一杯支援していきたい。 インターネットの弊害については児童だけでなく保護者も知っておくことが大切である。来年度も引き続き、保護者同伴での研修の機会を持ち、PTA と連携した取り組みを続けてほしい。
学校・家庭 地域との連携	学校教育活動に関する情報提供を積極的に行い、保護者・地域の人々への理解と協力が得られるようになってきたか。	学校便りをホームページに載せている。また、来校者にも様子がわかるように、掲示板を利用して日常の様子を掲示している。 志手原っ子地域づくり協議会、PTA 全体役員会等を通じて、区長会、老人会、スポーツ 21 など、地域団体への情報発信に努め、連携を深めた。	さらなるホームページやマ・メール(メール配信システム)の活用の充実を図り、学校の情報を適切に発信していく。 運動会、音楽会、オープンスクール、志手原フェスティバル、わいわいカーニバル等学校行事の工夫改善を図り、PTA 行事との連携を深め、学校評議員、民生児童委員、学校応援者を通して地域と共同した取り組みとする。	メール配信システムについても積極的に活用して行ってほしい。 情報発信にも新型コロナウイルス感染症による制限があるため、ホームページ等の更なる効果的活用を検討して行ってほしい。
	学校行事や体験活動等で保護者や地域の人材と連携した教育活動を積極的に推進できたか。	必要な活動では、ボランティアの方々の協力を得ている。 今年度は、子どもたちがボランティアの方々に感謝のメッセージカードを渡した。子どもたちが、地域の方々に見守られているということをあらためて認識し、感謝する活動になった。	いろいろな場で、子どもたちにボランティアの方々にお世話になっていることを伝えていく。 交通安全教室のお手伝いなど、協力を得たい活動は、前年度から計画してお願いしていく。 今後の活動のために、新たな地域人材を確保していく。	志手原地域づくり協議会との積極的な連携を図って行ってほしい。また同時に学校支援ボランティアの人材(新しい人材)の確保について協力していきたい。